



図書館通信

静岡大学附属図書館報 NO.172 2020.4

目次 ■ 巻頭言 ■ 図書館通信の発行形態について ■ 未来創成基金による什器等の刷新について
■ 教員等著作寄贈図書一覧 ■ 図書館の動き ■ 図書館開館日程〔2020年4月～9月〕

〈巻頭言〉

ゾウさん



館長 澤田 均

新入生の皆さん、ようこそ静岡大学へ。もう新生セミナーの中の図書館利用セミナーを受講しましたか。それともこれからでしょうか。本学図書館には数多くの蔵書・電子リソースがあります。多くの良書と出会い、成長の糧にしてください。新しい知識を吸収し、学問の面白さを実感してください。私も専門分野の生態学について日々学んでいます。その一端を紹介しましょう。

地球上には数多くの生き物が生息しています。生き物のこと、そして人間活動の影響を深く理解することが、生態学の目標の1つです。私たちの周りにも多くの生き物がいますね。例えば、静岡キャンパスにも多くの木々が生えています。私のお気に入りにはネムノキ、その姿を見るとサバンナを連想します。昨年、キャンパ

スがある有度丘陵でナウマンゾウの化石が見つかりましたが、その昔、この地もアフリカのように大型動物の楽園だったのかもしれない。アフリカのサバンナといえば、プリンストン大学のロバート・プリングルさん率いるグループが精力的に研究しています。その1つが1月23日号のネイチャー誌で紹介されました。「侵入植物 vs. 草食動物」という記事で、凍としたウォーターバックの写真付きです。

ここで紹介された論文はネイチャー・エコロジー&エボリューション誌に発表されたもので、再野生化によって外来低木の拡大を防ぐという内容です。場所はモザンビーク・ゴロンゴザ国立公園。静岡県の半分ほどの面積の保護区にゾウやバッファローなど大型動物が暮らしています。しかし、悲しいことに内戦(1977年から92年)で多くの動物が殺され、個体数が激減しました。現在、個体数を回復させる再野生化計画が進行中です。草食動物の激減は植生をも悪化させました。例えば、外来低木ミモザ・ピグラの増加です。ミモザはネムノキ亜科の1種、ネムノキと少し似ています。

研究者は、大型動物はミモザを食べて拡がりを抑えるという仮説を立て、次のように予想しました。①大型動物の激減でミモザは拡大したが、再野生化で減少している。②大型動物はミモザをよく食べる。③食べることでミモザの成長を抑えている。動物を排除すると拡がる。では、どんな方法で確かめたのでしょうか。内戦前のミモザの分布状況を知るには、プレトリア大学図書館に保管されている学位論文が役立ち

ました。再野生化にともない内戦前のレベルまでミモザが減少していたのです。続いて動物6種の糞を採取し、DNA分析したところ、どの動物からもミモザのDNAが見つかりました。ミモザを食べている証拠です。栄養価が高いため、好んで食べているようです。フェンスで囲って食われないようにした区と対照区を設けて調べてみると、食べることで成長と繁殖を強く抑えることが分かりました。植生調査(文献調査、衛星画像の解析を含む)、糞分析、野外実験を組み合わせた見事な研究です。

深く理解するためには、自分で質問を考えてみるのが大切です。例えば、降水量とミモザの関係はどうなのか。降水量が多い年はミモザが増え、降水量が少ない年には減るのではないか。再野生化計画では肉食動物も回復させるのか。もしそうなら、ミモザが再び拡大するのではないか。再野生化の問題点はないのか。

実は再野生化には問題点があります。例えば、ゾウと農民の対立です。内戦中、象牙を売って武器を買ったり食料にするために、ゾウの90%以上が殺されました。再野生化でようやく600頭まで回復したところでした。一方、内戦後、公園の周りに暮らす人々が急増し、農地が増えました。そこにゾウが侵入して食い荒らすのです。そこで、プリングルさんのグループはゾウ12頭にGPSを付けて移動範囲を調べたり、どんなフェンスで農地を囲うと侵入を防げるか、調べています。最も効果的なのは、なんとミツバチの巣箱フェンス。アフリカミツバチは攻撃的な性格でゾウも苦手なのですね。

プリングルさんらの論文から多くのことを学ぶと同時に、サバンナを吹き抜ける風のような爽やかさを感じました。皆さんも図書館を大いに利用し、存分に学んでください。広い視野を養い、賢い人になってください。最後に(著作権法で引用できませんが、)「ぞうさん」で有名なまど・みちおさんの詩「アリ(アリを見ると)」(注1)もぜひ読んでみてください。

(注1) 谷川俊太郎編『まど・みちお詩集』(岩波書店)が静岡本館開架にあります。

電気 vs. ガス



分館長 河本 映

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学では自主的な学習が重要視されています。図書館は静岡90万冊、浜松30万冊の蔵書をベースに、みなさんの要求に応えていきたいと思えます。新入生以外の方々には、引き続きよろしくお願いします。

さて、私は電気の発生輸送に関する研究をしていますが、この分野の技術動向を追ってみると、昔使われて一度廃れた技術が、形を変えて再び注目される例が多いことに気づきました。これに触発され、“100年前”、を調べるため、本学はもとより東京の図書館に通ったり、昔の教科書や社史などを買い集めたりしました。これらの資料の中から、今回は「電気 vs. ガス」について紹介したいと思います。昔話のつもりで読んでみてください。

私たちは今、当たり前のように照明に電気を使っていますが、わが国で今のような電気供給が始まったのは1890年ごろのことでした。それ以前の明かりとしては、江戸時代さながらの行灯や石油ランプ、街路や広間ではガス灯が使われていました。ガスは今日では熱源としての利用が一般的ですが、当初は灯火に用いられたのです。

こんな状況でしたから、電灯はそう簡単に世の中に受け入れられたわけではありません。当時の技術では1台の発電機で点灯できる電球はわずか400個程度しかない上に、発電所のすぐ近くにしか配電できず、電気代は相当高価なものでした。また、電球は炭素線電球でしたからガス灯と比較して必ずしも明るくなかったのですが、1900年前後にガスマントルを用いた白熱ガス灯が一般化するに及んで、その劣勢が決定的になりました。

さらに電気は目に見えない、得体の知れないものです。当時は他に原因が見つからない火事の原因は漏電、などと決めつける風潮もあり、1891年に帝国議事堂が焼失した原因も漏電だと喧伝されました。宮中でも電灯を廃してろうそくに戻したりしています。

この間、ガス会社の業績は好調でしたが、それで安心していただけではなく、灯火以外の用途を広げていきました。炊事用ガスコンロや暖房器具、蒸気機関に代わるガスエンジンなど熱・動力需要です。中にはガスエンジンで自家発電するところもあったようです。

対する電気のほうも、技術開発が進んでいきます。長距離配電を可能にした高圧配電と発電所の集中化、安価な水力発電などが20世紀初頭に実現し、さらにタングステン電球の発明により白熱電球の性能は今とほぼ同じになりました。その結果ガス灯から電灯への世代交代が急速に進むこととなります。また、大正時代に入ると電気で動くモーターが次第に普及し、動力用としてのガスエンジンは次第に姿を消してゆくことになりました。

その後電気はいろいろな用途に使われるようになった反面、ガスはほぼ熱需要だけという時代が長く続いたのです。更に1970年代になるとエアコンが普及し暖房需要が、またIH調理器により炊事用の熱需要が電気に奪われるようになります。1990年代以降、原子力発電による潤沢な夜間余剰電力を背景に、オール電化住宅がもてはやされたのです。

ところが、こうした電気一辺倒の時代は続きませんでした。ガスの巻き返しの一つは、ガスエンジンによる自家発電です。これは100年前のリバイバルですが、当時と違うのはエンジンから出る熱を給湯や冷暖房に使うようになったことです。このような発電方式をコージェネレ

ーションと言いますが、ホテルや病院など熱をよく使う施設で広く使われるようになりました。燃料電池を用いた小型のものは家庭用として売り出されています。

もう一つはガスエアコンです。電気のエアコンはモーターで機械を回すのですが、同じ機械をガスエンジンで回すことができます（GHPといいます）。いろいろ欠点もあるのですが、本学キャンパスでもこのガスエアコンがたくさん使われています。

以上の例のように、一つの産業がいつまでも他を押しつけて繁栄を極めることは難しいようです。我々は常に広い視野で物事を見る習慣をつけておく必要があるでしょう。

本稿をまとめるにあたって、「東京瓦斯七十年史」(注2)「関東の電気事業と東京電力」(注3)などを参考にしました。本学の母体となった学校は、いずれも100年以上前に創立され、図書館はその蔵書を引き継いでいます。昔の教科書もありますので、興味のある人はどうぞ。

(注2) 静岡本館書庫所蔵。また、国立国会図書館デジタルコレクションのものが利用できます。詳しくは浜松分館カウンター、または静岡本館レファレンスカウンターへ。

(注3) 浜松分館開架、静岡本館書庫にあります。



<図書館通信の発行形態について>

「図書館通信」は今号(172号)から冊子体の発行をとりやめ、ウェブへの掲載のみといたします。

掲載場所は、以下の通りです。

図書館通信

<https://www.lib.shizuoka.ac.jp/aboutus/publish/report/>

＜未来創成基金による什器等の刷新について＞

静岡大学未来創成基金宛ご寄付を受けて、静岡本館ラウンジのテーブル、椅子の刷新、ハーベストルームの椅子の追加、セミナールームのプロジェクタの更新を行いました。

ラウンジには、窓際のカウンターに背もたれの低い椅子を、通路側には背もたれの無いスツールを配置しました。ともに暖かさを感じさせる色で、明るさも増したと感じております。

ご寄付いただいた方に深く感謝申し上げますとともに、皆様のご活用をお願いいたします。



＜教員等著作寄贈図書一覧＞

この度は著作物をご恵贈していただき誠にありがとうございます。
図書館では学内出版物及び学内関係者が執筆した図書を収集しています。
今後も著作を刊行された際には是非ご恵贈くださるようお願いいたします。
(寄贈図書一覧は館別、著作者のお名前五十音順に配列しています)

◇大野旭 (人文社会科学領域)

- ・モンゴル最後の王女：文化大革命を生き抜いたチンギス・ハーンの末裔 [草思社] <共著> 静・開架 【289.2/Y72/B】
- ・加害者に対する清算 [風響社] <編> 静・開架, 浜・開架 【312.227/Y72/11】
- ・紅衛兵新聞；2 [風響社] <編> 浜・開架 【312.227/Y72/10】
- ・中国の一带一路構想の系譜とエスニシティのネットワークを介した対外文化戦略の研究 [松本ますみ] <執筆> 静・開架 【332.22/MA81】

◇今野喜和人 (人文社会科学領域)

- ・翻訳とアダプテーションの倫理：ジャンルとメディアを越えて [春風社] <編> 静・開架, 浜・開架 【801.7/K075】

◇遠山弘徳 (人文社会科学領域)

- ・Evolving diversity and interdependence of capitalisms：transformations of regional integration in EU and Asia [Springer] <執筆> 静・開架 【362.06/B69】

◇戸部健 (人文社会科学領域)

- ・地方戯曲和皮影戯：日本學者華人戯曲曲藝論文集 [博揚文化事業] <執筆> 静・開架 【772/H57】
- ・中華圏の伝統芸能と地域社会 [好文出版] <執筆> 静・開架, 浜・開架 【702.22/C64】
- ・東アジアの視野からとらえた日本の茶と茶文化に関する学際的研究 [静岡大学人文社会科学部・アジア研究センター] <編>

- 静・開架, 浜・開架 【619.8/T013】
- ◇中本義彦 (人文社会科学領域)
 - ・アメリカはなぜ戦争に負け続けたのか : 歴代大統領と失敗の戦後史 [中央公論新社] <監修> 静・開架 【392.53/U61】
- ◇西原純 (名誉教授)
 - ・榛村純一の掛川市政 28 年 [静岡新聞社] <執筆> 静・開架 【318.254/SH64N】
- ◇朴龍洙, 河岸洋和, 原正和 (グリーン科学技術研究所)
 - ・Green science and technology [CRC Books] <編> 静・開架 【519/G82】
- ◇藤井基貴 (教育学領域)
 - ・道徳教育 [ミネルヴァ書房] <編> 静・開架 【373.7/A94/7】
- ◇本多隆成 (名誉教授)
 - ・徳川家康と武田氏 : 信玄・勝頼との十四年戦争 [吉川弘文館] <著者> 静・開架 【210.48/H84】
- ◇町岳 (教育学領域)
 - ・教師のための説明実践の心理学 = Explanatory psychology for teachers [ナカニシヤ出版] <執筆> 静・開架 【146.8/Y31】
- ◇松田智 (工学領域)
 - ・The research into environmental issues [LAP Lambert Academic Publishing] <著者> 浜・開架 【519/MA74】
 - ・エネルギー資源の世界史 : 利用の起源から技術の進歩と人口・経済の拡大 [一色出版] <執筆> 浜・開架 【501.6/MA87】
- ◇村上健司 (イノベーション社会連携)
 - ・先進化学センサ : ガス・バイオ・イオンセンシングの最新技術 [ティー・アイ・シー] <執筆> 浜・開架 【572/D58】
- ◇山下隆之 (名誉教授)
 - ・人口移動の経済学 : 人口流出の深層 = Economics of internal migration [晃洋書房] <編> 静・開架 【332.154/Y44】
- ◇山本崇記 (人文社会科学領域)
 - ・LGBT スピーカー養成講座報告書 [山本崇記] <著者> 静・開架 【367.9/L59】

<図書館の動き>

- ・平成 30 年度第 4 回附属図書館委員会 <平成 31 年 3 月 14 日 (木)>
- 審議事項
 1. 平成 30 年度第 3 回議事要旨について
 2. 平成 31 年度事業計画について
- 報告事項
 1. 平成 30 年度事業報告について
 2. 自己評価について
 3. 平成 30 年度図書館利用セミナー等の年間実施報告について

4. 平成 30 年度附属図書館ギャラリー活動について
 5. 東海北陸地区国立大学図書館協会研修会について
- ・平成 31 年度第 1 回附属図書館委員会 <平成 31 年 4 月 19 日 (金)>
 - 審議事項
 1. 平成 30 年度第 4 回議事要旨について
 2. 附属図書館関連委員会委員等の選出について
 - 報告事項
 1. 第三期中期目標期間における附属図書館の年度計画について
 2. 平成 31 年度事業計画について
 3. 学術リポジトリの登録状況について
 - ・令和元年度第 2 回附属図書館委員会 <令和元年 7 月 16 日 (水)>
 - 審議事項
 1. 平成 31 年度第 1 回議事要旨について
 2. 平成 30 年度附属図書館経費決算について
 3. 令和元年度附属図書館経費予算について
 4. 令和元年度学生用図書購入費の配分について
 5. 図書の不用決定について
 - 報告事項
 1. 外部評価委員会について
 2. 附属図書館利用状況について
 3. 研究室貸出図書の点検について
 4. 令和元年度後学期における図書館セミナーの実施について
 5. 静岡新聞データベース plus 日経テレコンについて
 - ・令和元年度第 3 回附属図書館委員会 <令和元年 12 月 6 日 (木)>
 - 審議事項
 1. 令和元年度第 2 回議事要旨について
 2. 令和 2 年度附属図書館の開館日程について
 3. 学生用図書費による令和 2 年度のデータベース購入について
 4. 図書の不用決定について
 - 報告事項
 1. 令和元年度図書館利用セミナーの実施について
 2. 静大フェスタ 図書館イベントについて
 3. 図書館通信 発行形態の変更について
 4. 静大・浜医大図書館 e～ら便について

図書館開館日程〔2020年4月～9月〕

| | | | |
|--|-------------|--|-------------|
| | 9:00～22:00 | | 10:00～17:00 |
| | 10:00～19:00 | | 9:00～17:00 |
| | 9:00～21:00 | | 休館日 |

静岡本館

※開館日・開館時間は変更することがあります。臨時に休館する場合は、別途お知らせします。

| 令和2年4月 | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

| 5月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

| 6月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

| 7月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

| 8月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

| 9月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

浜松分館

※開館日・開館時間は変更することがあります。臨時に休館する場合は、別途お知らせします。

| 令和2年4月 | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

| 5月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

| 6月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

| 7月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

| 8月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

| 9月 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第172号（令和2年3月31日発行）

発行所 静岡大学附属図書館 URL <https://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL.054-238-4473 Fax.054-238-5408

